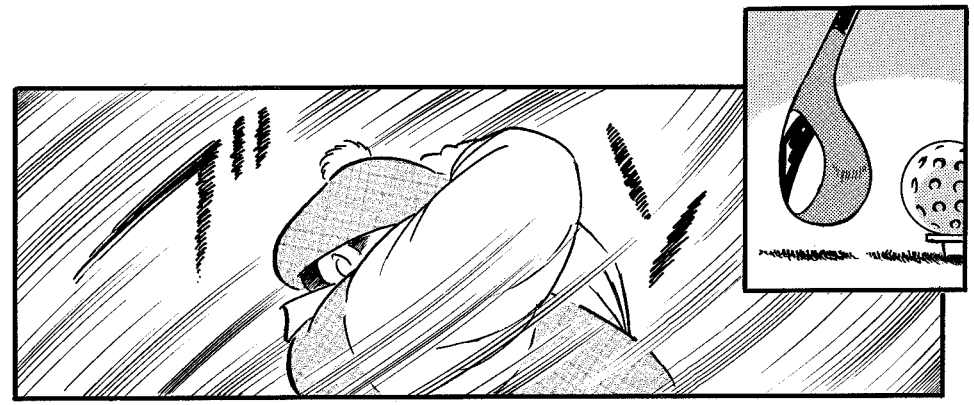
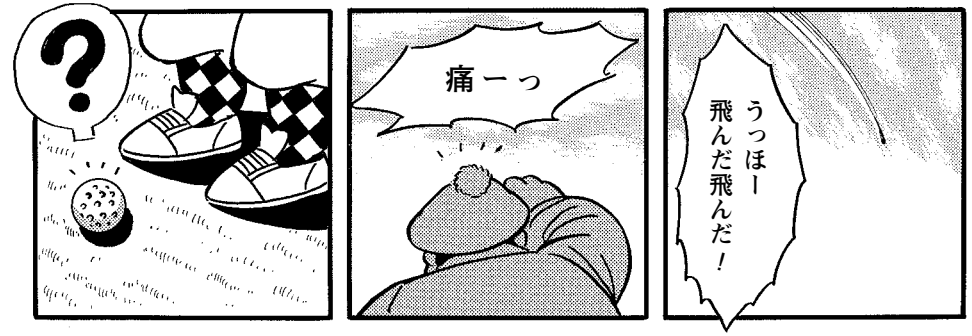
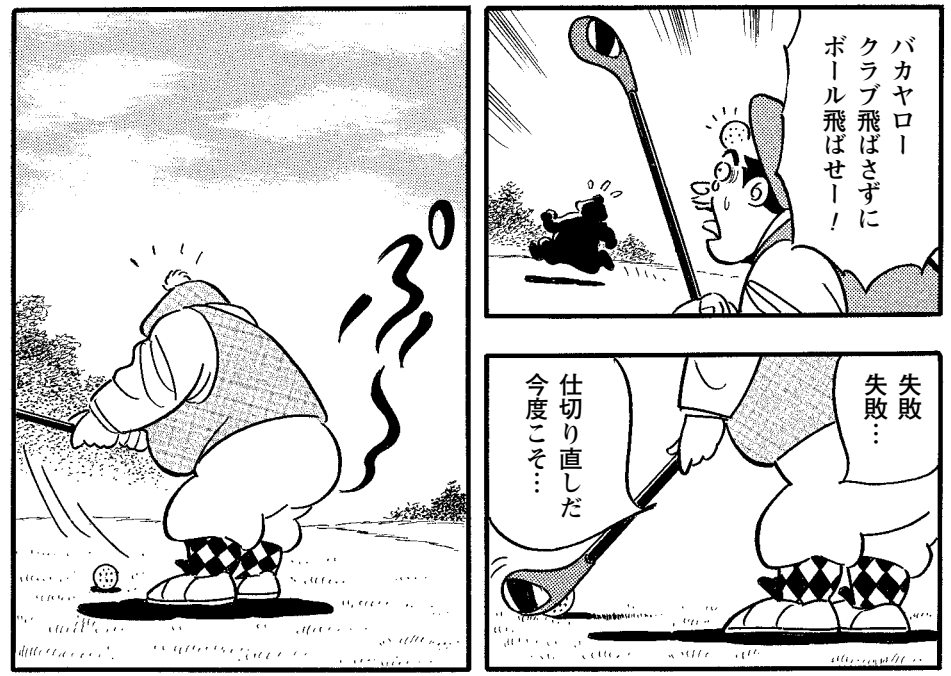
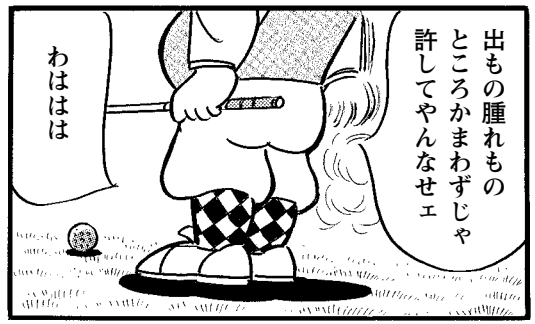
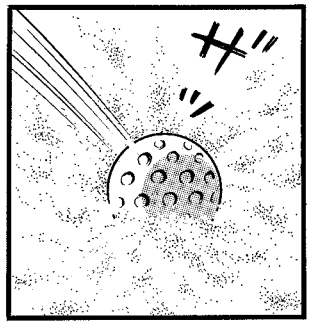


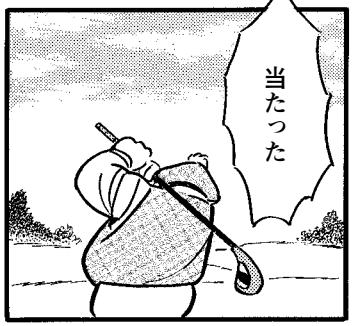

うっほー
飛んだ飛んだ！
痛ーっ
？


バカヤロー
クラブ飛ばさずに
ボール飛ばせー！
失敗
失敗…
仕切り直しだ
今度こそ…

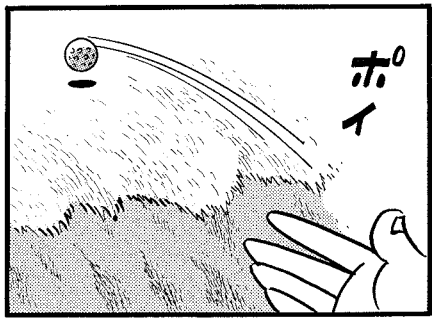

出もの腫れもの
ところかまわずじゃ
許してやんなせェ
わはははは

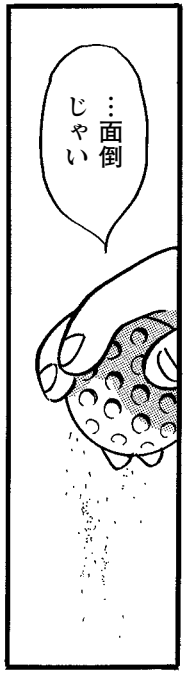
ぷーーん

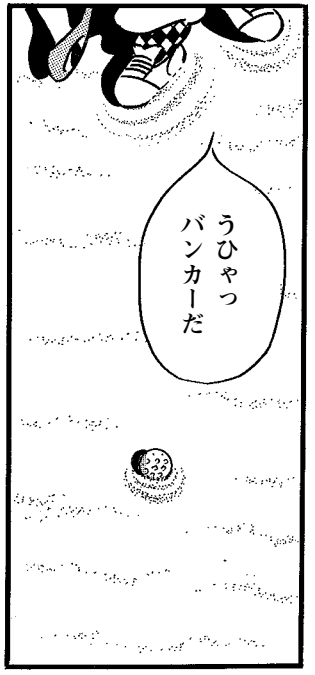

ザッ


当たった

コー

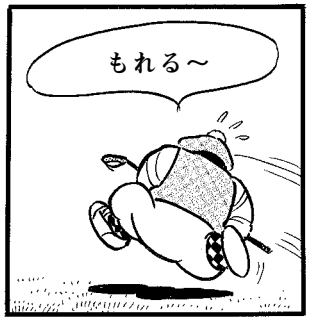

ポイ

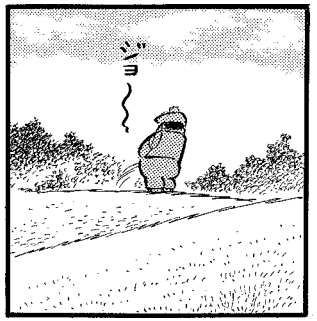

…面倒
じゃい


うひゃっ
バンカーだ

佐藤さん
そりゃ反則
ですよ

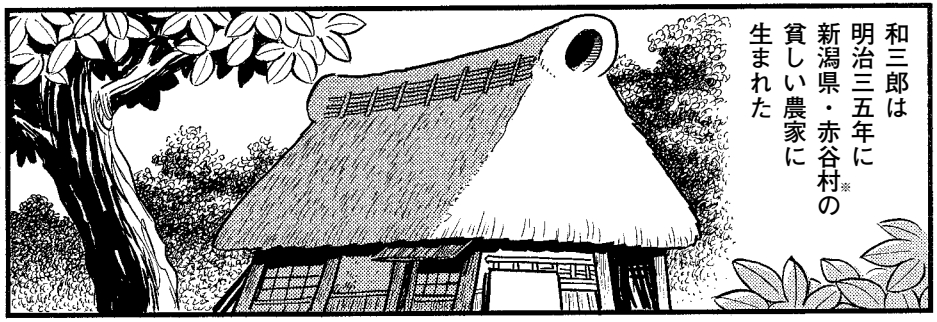
ははは
かまわん
かまわん


もれる～


ジョ～～

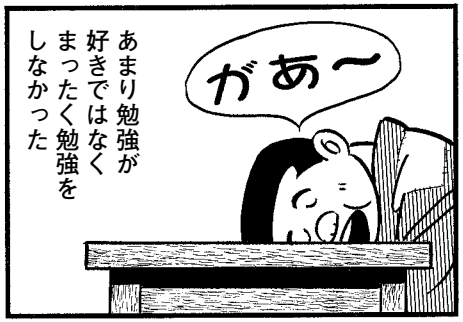
あちゃ～
なんて
マナーの悪い
男だ

天衣無縫というか
傍若無人というべきか
この紳士こそ
誰あろう…
「ブーちゃん」の
愛称で多くの人々に
愛された相場師
佐藤和三郎
その人である
ビーヨ

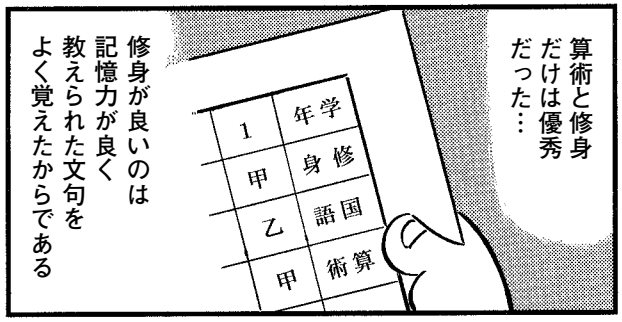

和三郎は
明治三五年に
新潟県・赤谷村※の
貧しい農家に
生まれた

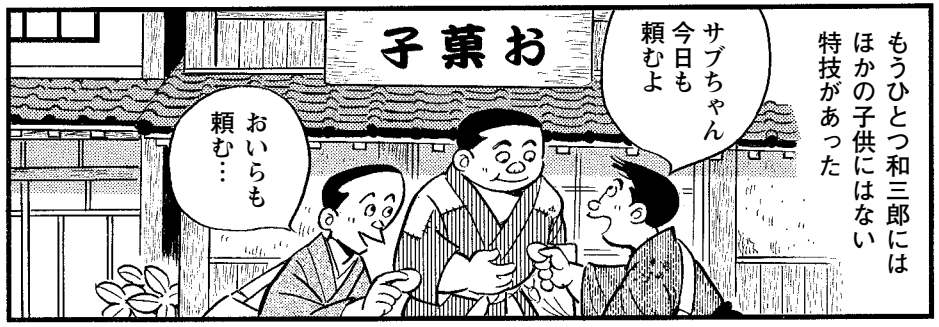
※現・新発田市赤谷町。

子供のころの
和三郎は
がす～


があ～
あまり勉強が
好きではなく
まったく勉強を
しなかった

したがって
学校の成績は
ビリに近かったが

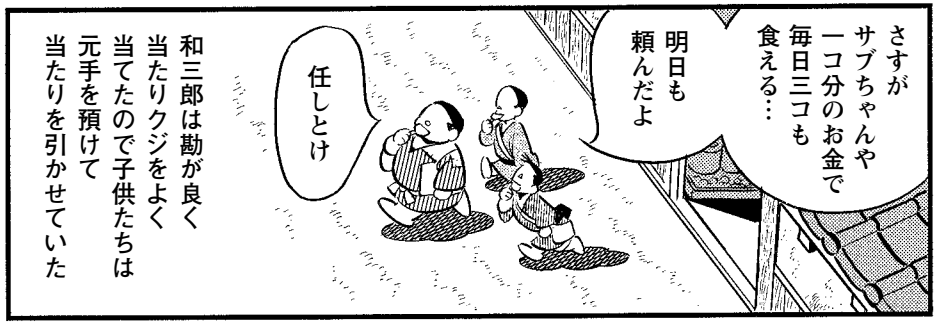

算術と修身
だけは優秀
だった…
修身が良いのは
記憶力が良く
教えられた文句を
よく覚えたからである
1 年学
甲 身修
乙 語国
甲 術算


もうひとつ和三郎には
ほかの子供にはない
特技があった
子菓お
サブちゃん
今日も
頼むよ
おいらも
頼む…

またまた
大当たりー
当り

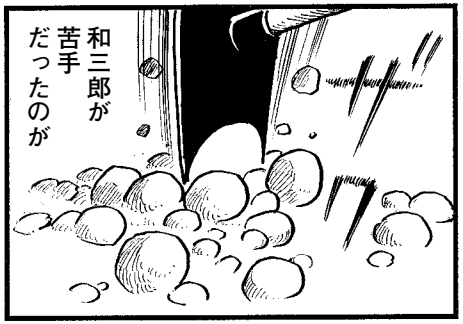
今日は
これで
やめとこ
バアちゃんの
店の品物が
なくなるでな

まったく
運の強い
子だねェ
将来は
大金持ち
じゃぞい


さすが
サブちゃんや
一コ分のお金で
毎日三コも
食える…
明日も
頼んだよ
任しとけ
和三郎は勘が良く
当たりクジをよく
当てたので子供たちは
元手を預けて
当たりを引かせていた

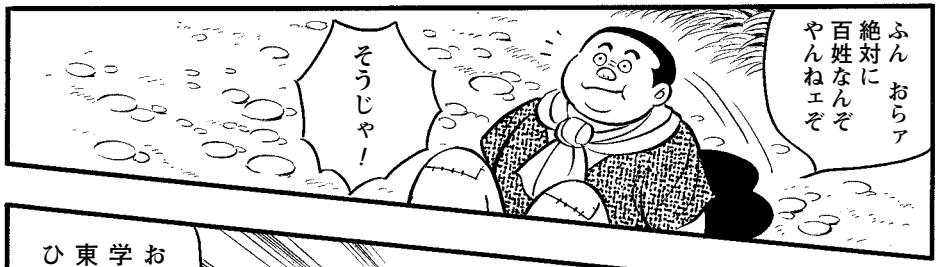
家が貧しくて
小遣いなど
もらえなかったが
この特技の
おかげで
おやつに不自由
することは
なかったのである
ペロ
ペロ

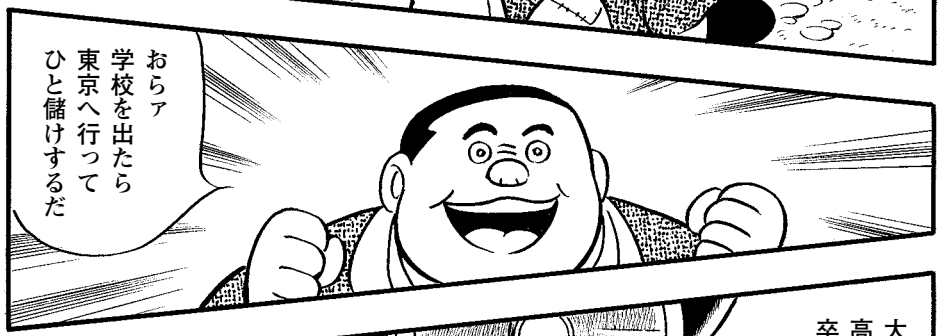
百姓仕事
だった
あ～
腰が痛ェ！

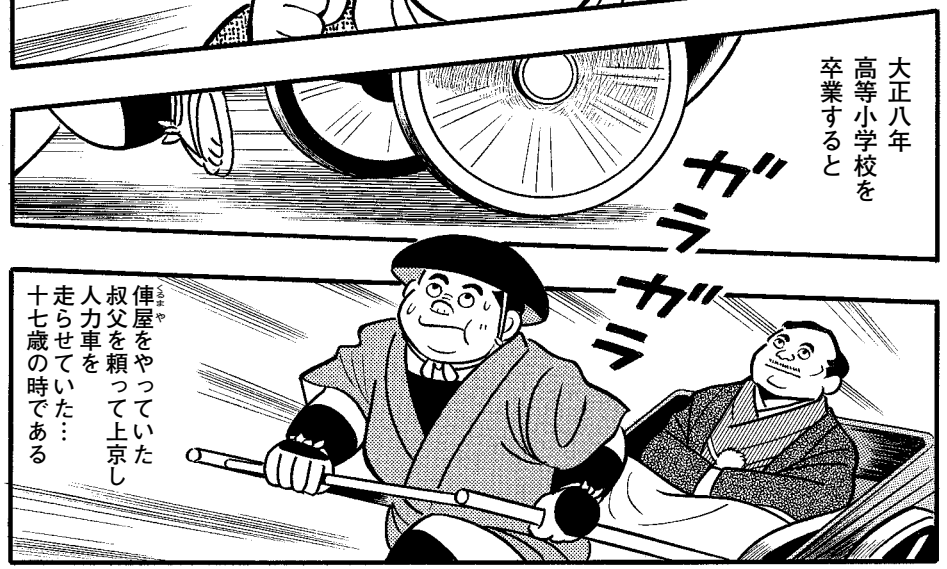

和三郎が
苦手
だったのが

やだやだ
百姓なんぞ
えらい目
ばっかりで
いつも貧乏だ

和三郎　何しとる
今日中に耕して
しまわんと
いけんだに
しっかり
手伝っとくれ


ふん　おらァ
絶対に
百姓なんぞ
やんねェぞ
そうじゃ！


おらァ
学校を出たら
東京へ行って
ひと儲けするだ


大正八年
高等小学校を
卒業すると
ガラ
ガラ
俥屋をやっていた
叔父を頼って上京し
人力車を
走らせていた…
十七歳の時である